

英語科 2年

## CB を用いた個に応じた音読指導

担当 白根和延

### 【活動の目標】

CB を用いて繰り返し教科書本文の音声を聞き、音の連結と強弱があらわれている箇所を見つけ、教科書にメモを取らせることで、音読練習の際に、より英語らしい音声で練習できるようになる。

### 【 問 い 】

- ・「音のつながりポイント」と「音の強調ポイント」の2つをCBの音声を聞いて探そう、と発問する。  
(発問・活動・教材など) (問いの工夫Ⅰ)
- ・特に「音の強調ポイント」については、なぜそこが強調されているかについて考えさせることで話者の心情や、英語特有の音声の特徴について考える場とする。  
(問いの工夫Ⅱ)

今回 ICT を活用した場面	従来 の 活動
B2 教科書本文音声の音の連結と強調があらわれている箇所を見つける。	教師の範読や、CD の音声をおおまかに聞き取り復唱していたので、英語らしいリズムや発音で音読ができていない面があった。
B4 表現・制作	
C1 発表・話し合い	

### 【資料】

↓生徒が見つけた音声上の特徴を大型テレビに映る教師機の画面にその場で書き込み、全体で共有。

Ms. Brown: Did you enjoy hiking this morning?  
Dinu: It was excellent. Walking in the woods was fun.  
Ms. Brown: There was fog in the morning, was it there?  
Dinu: Yes. Why is that?  
Ms. Brown: When warm moist air cools down at night, it becomes fog.  
Dinu: That's interesting.

### 【ICT 機器を活用する良さ】

- それぞれが繰り返し聞きたい英文をピンポイントで再生できる。
- はやく・ふつう・ゆっくりの3つのスピードに音声調節できるので、自分が聞き取れる速さで聞くことができる。

### 【改善すべき点と原因および改善案】

- ・「つながっているように聞こえる」「強調しているように聞こえる」については、多少の個人差があり、発表する時に、自分の考えは正しいかどうか自信が持てない様子がある。  
→ペアで確認する時間を設けたり、教師が生徒の発見を肯定的に受け止める姿を見せたりすることを継続することで、少しずつ自信につなげていく。